

経営比較分析表（令和6年度決算）

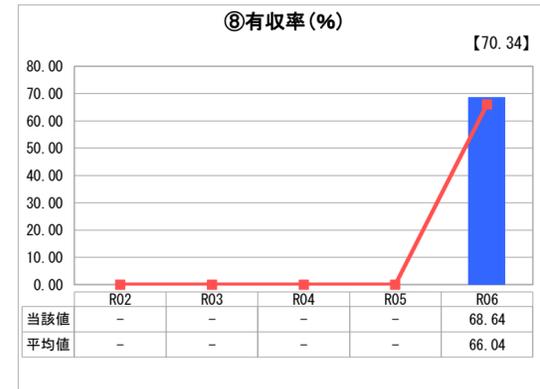
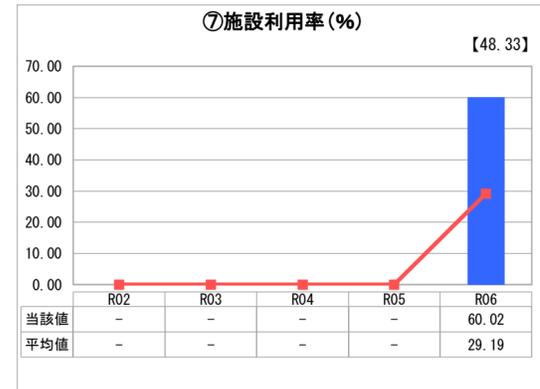
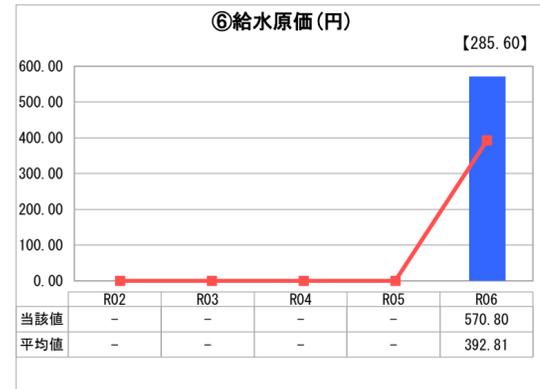
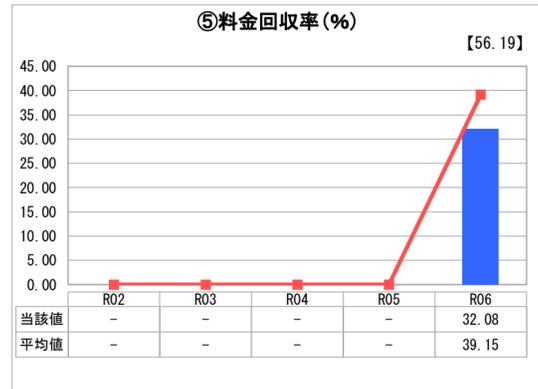
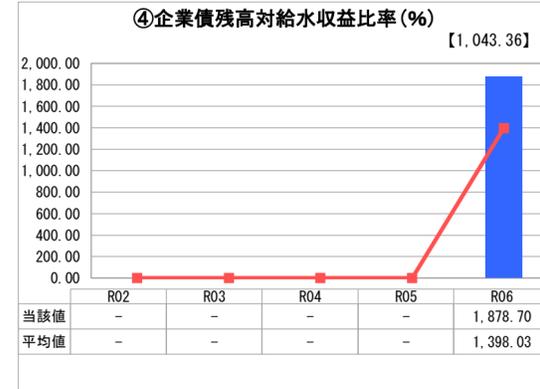
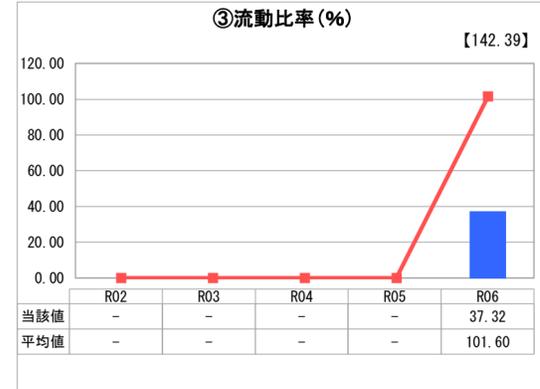
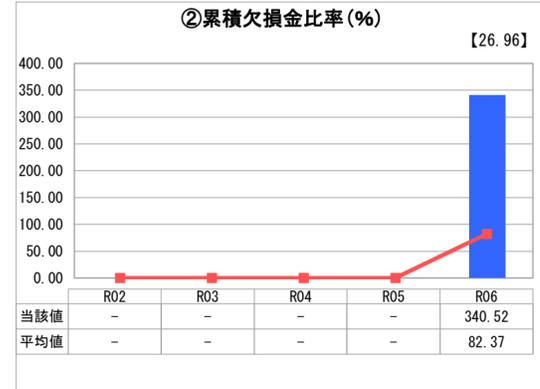
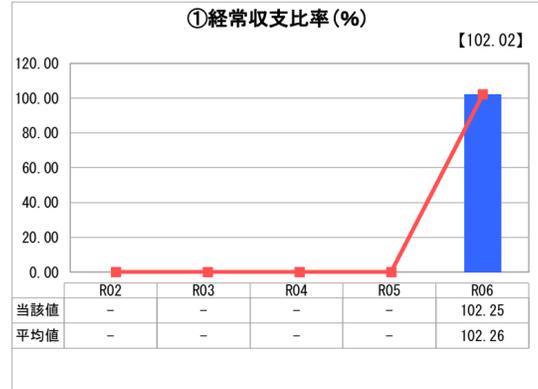
北海道 中川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	70.57	98.56	4,629	

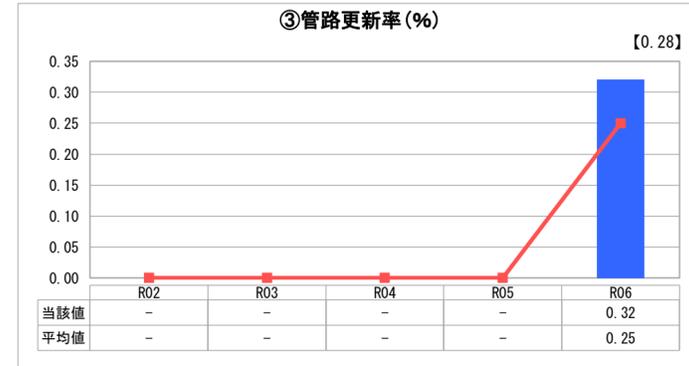
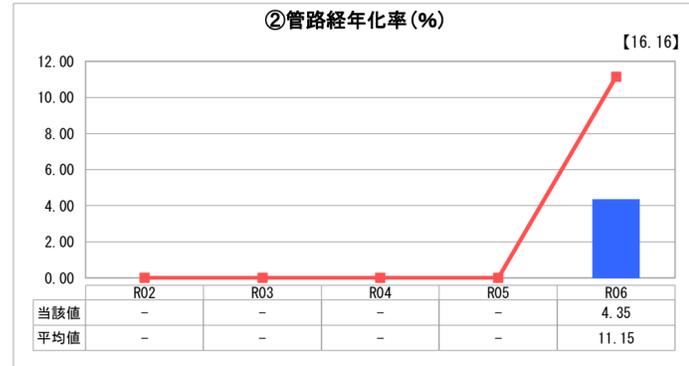
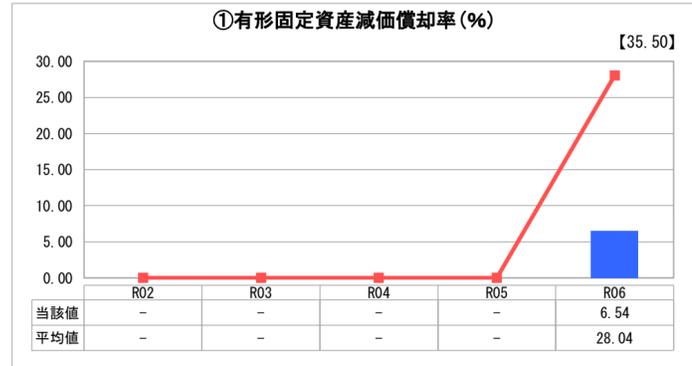
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,269	594.74	2.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,233	7.50	164.40

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%以上であり、単年度収支においては、健全経営が行われているが、将来的な人口減に伴う給水収益の減少が見込まれるため、更なる経営効率化に努める必要がある。
 累積欠損金の発生があるので経営改善に努める必要がある。
 給水人口の減少・節水意識からの使用量の減少等から、料金回収率は低くなっている。引き続き費用削減に努め、経営効率化に努める必要がある。
 給水原価は平均値を上回っており、更なる経営効率化や老朽管更新事業等による有収率向上に努める必要がある。
 施設利用率は平均値より高い利用率にはなっているが、今後は給水人口の減少が見込まれるため、将来的に適切な施設規模を見極めていく必要がある。
 漏水調査及び修繕を適時実施している。今後も配水管等の漏水調査を実施し、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

管路更新については、布設時期などから老朽の度合いを考慮し、適宜更新をしていく必要があると考える。
 年次計画により耐震化管路更新(布設替)をしている。布設替えに使用する管種については、漏水の恐れが少なく、耐震性を有するポリエチレン管を採用している。
 事業費の平準化を図り、計画的かつ効率的な更新が必要と考えられる。

全体総括

令和6年度から公営企業会計の適用となっている。今後の料金回収率や住民サービスの更なる向上のために維持管理費の減少といった経営改善の検討を行う必要がある。
 漏水調査を実施することにより、漏水箇所を早急に修繕し、有収水量や経常費用の変化等を踏まえながら、有収率向上を図っていく必要がある。
 施設老朽化対策については、管路経年率や管路更新率の状況を踏まえながら更新していく必要があると考える。
 また、経営の健全性・効率性や老朽化の状況を分析し、将来に向けた経営の見直しをしていく必要があると考えられる。